

《2011年度ICD日本部会・年末集会特別企画》

オペラの楽しみ方、教えます

声楽家

橘 今日子



●抄録●

2011年度ICD日本部会年末集会は12月17日（土）午後3時30分より帝国ホテル孔雀 西の間で開催された。今回のアトラクションは声楽家 橘 今日子先生を招聘し「オペラの楽しみ方、お教えします♪」と題して講演とピアニスト 竹田宗一郎氏の伴奏によるミニコンサートが行われた。

キーワード：オペラ、メゾソプラノ

「オペラ鑑賞に行きたいな。」

今年度の年末集会の特別企画はそう思わせてくれるに十分な素敵なアトラクションでした。

声楽家（メゾソプラノ）橘 今日子先生の歌声で幕を開けました。曲はヘンデルの作曲したオペラの中のアリアで日本ではCMにも使われたオンブラ・マイ・フです。会場では、そのスタイルの良い容姿からは想像できないような声量と綺麗な歌声にまず引き込まれてしまいました。

橘 今日子先生は東京芸術大学音楽学部声楽科アルト専攻卒業後、二期会のオペラやコンサートに多数出演され、幅広いレパートリーで活躍されています。

その後、オペラ初心者のためのわかりやすい講演があり、総合芸術といわれるオペラのイロハから始まり、それが意外に難解ではなく親しみやすいものであること、総合芸術といっても内容は男女の色恋沙汰が多いなどオペラがイタリア発祥すら知らなかった私にはとても興味深い内容で楽しく拝聴いたしました。

ユーモアたっぷりの講演で、メゾソプラノの声楽家には、ソプラノに比べかわいらしい役柄が来ないというようなエピソードを交え、声種と役柄の関係を説明されたり、劇場で生の声を聴くことが一番良いがそれ

もあまり硬く考えず、寝ながら聞くぐらいの気楽な気持ちで楽しんで下さいなど親しみやすい内容でした。その上で、外国語で行われる上に字幕を追っていると文化の違いから意味が把握しづらいのであらかじめプログラムは読んでおくなり、あらすじを知っておくことより楽しめるようなアドバイスやオペラ初心者が楽しめるお勧め演目は、カルメン（橘先生が最初に好きになったオペラだそうです）、椿姫（ヴェルディの代表作）、蝶々夫人（イタリアのプッチーニが日本に憧れて作った）などが最初でもわかりやすいとご教示されました。

さらにはbravoの発音（いわゆるブラボーではなく）を会場で練習したり、使い分けまで教えていただきました。bravoは男性に対してbravaは女性に対して、braviは複数に対してとのことでした。

お話は体型（最近スタイルの良いオペラ歌手が多い）、カラオケの練習法や我々とも関連深い呼吸にまで及び十二分に楽しめました。

その後、武田宗一郎氏のピアノ伴奏によるミニコンサートが行われました。選曲も幅広く、アヴェマリア、サイレントナイト、花の街、サムソンとダリラ、愛の賛歌、ザ・クリスマス・ソングさらにはアンコールで

カルメンまで、会場全体が至福の時を過ごすことができました。

2011年は東日本大震災をはじめ日本全体に暗い

ニュースが多かったのですが、出席者全員が癒された空間に包まれました。

文責：田中康雅



Will Teach You How to Enjoy the Opera

Opera Singer

Kyoko TACHIBANA

The 2011 I.C.D.Japan Section Year-end Meeting was held on December 17 (Sat.) at 15:30 at the Imperial Hotel “Kujyaku Nisi no Ma”.

In this attraction, we invited a vocalist Kyoko Tachibana and a lecture entitled “Will teach you how to enjoy the opera” and a mini-concert with piano accompaniment by Mr. Souichiro Takeda were carried out.

Key words : Opera, Mezzo-Soprano